

1 開会

2 土屋市長あいさつ

今年度 第1回目の総合教育会議に御参加いただき、誠にありがとうございます。

峯村教育長はじめ、教育委員の皆様方におかれましては、常日頃から子どもたちの教育の充実、発展のために、大変な御尽力をいただいておりますこと、心から感謝申し上げます。

全国的に新型コロナウイルスの感染拡大が懸念されておりますが、長野県でも来月22日までを「感染対策強化期間」として警戒する中、上田市では65歳以上の高齢者向けワクチン接種が概ね完了するとともに、市独自優先接種者の対象として小・中学校の教職員の皆さんへの接種も始まっているところで、今後、希望される64歳以下の方々への接種を、11月末までの完了を目指し進めていく予定です。

昨年からの感染防止対策に御尽力をいただいております教育委員の皆さまをはじめ、学校関係者の対応に改めまして感謝を申し上げますとともに、夏休み明けも子どもたちが安心して学び、過ごすことができる環境整備に努めていただけますよう、引き続き、皆様の御協力をお願い申し上げます。

さて、本日の会議ですが、1つ目には、全国的に少子化が進行し、上田市でも小中学校の児童生徒数が減少する中、外部有識者や学校関係者などで組織された「上田市小中学校のあり方検討委員会」において議論を重ね、策定されました「基本方針」を踏まえ、現段階での教育委員会の考え方などについて確認するとともに、今後の取組を共通認識のもとで進めていくための情報共有を図りたいと考えております。

また、2つ目として、教育現場における重要な課題の一つであります「不登校対策」について、今年度、この総合教育会議の重要なテーマと位置づけ、複数回にわたって取り扱ってまいりたいと考えており、上田市の現状や学校現場等での取組など、情報の共有を図るとともに、今後の効果的な取組につなげられるよう、共に考えていきたいと思っております。

本日の会議で議題としております、上田市の教育を取り巻く現状や課題、また、これからの方向性を教育委員会と市長部局がしっかりと共有することで、教育大綱に掲げた基本理念「燦と輝く上田の未来を紡ぐ人づくり」の実現につながっていくことを期待しております。

以上、簡単ではございますが、私からのあいさつとさせていただきます。

3 峯村教育長あいさつ

今年度 第一回目となります上田市総合教育会議の開催にあたり、一言 御挨拶を申し上げます。

日頃から、土屋市長には、上田市の教育行政発展のため、多大なる御支援、御協力をいただいておりますこと、心から御礼を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症のワクチン接種につきましては、土屋市長を先頭にさまざまな調整をいただき、着実に進んでいます。市長からもありましたとおり、市独自の優先接種枠の中で、小・中学校の教職員への接種も行っております。より安全安心な教育環境の確保に

向け、配慮をいただいていることに感謝を申し上げます。

さて、本日は、「上田市小中学校のあり方に関する基本方針」と「不登校対策」について、土屋市長と意見交換・協議の機会をいただきました。二つとも大変重いテーマであります。

まず、「上田市小中学校のあり方に関する基本方針」については、有識者からなる「上田市小中学校のあり方検討委員会」において、これからの時代を生きる子どもたちを育むための望ましい学校のあり方についてまとめていただいたものです。先日開催しました教育委員会定例会において、教育委員の皆様からは、中学校区での説明の時期や内容、説明を受ける側への配慮が必要なこと、また、説明をする相手に漏れがないかなど、慎重に検討し実施してほしいという御意見、子どもたちのコミュニケーション能力はある程度的人数の子どもたちの中で培われていくとの考え方や、個性を持つ仲間との学びを深めるとあるが、学校のある意義は、集団での学びが基本であるなど、様々な御意見をいただきました。同定例会では、基本方針を尊重し、基本方針に沿って望ましい教育環境の整備に向けて取り組むことについて、教育委員会の総意であることを確認いたしました。

本日は、教育委員会での議論等を市長に報告し、今後の取組に向けて、意見交換をお願いしたいと考えております。

次に、「不登校対策」については、これまでも教育委員会では、児童生徒の悩みに寄り添って支援を行っておりますが、不登校に至る背景はさまざまであり、改善に向けた取組は容易ではありません。不登校の状況にある児童生徒、保護者、教職員など、皆それぞれ苦しんでおり、心が痛みます。

本日は、最前線で不登校対策に取り組む関係者から現状と課題を聴き、情報共有を図りたいと考えております。今後、何回か議論を重ねる中で、より効果的な支援策について市全体で検討してまいりたいと考えております。

本日は、どうぞよろしくお願ひいたします。

4 会議事項

(1)「上田市小中学校のあり方に関する基本方針」について

●小相澤政策企画部長(進行)

配付資料をもとに意見交換を実施

●峯村教育長

教育委員の皆さんは御意見やお考えをお持ちですので、御発言をお願いしたい。

●綿谷教育委員

学校のあり方基本方針としては、非常に素晴らしいまとめになっているものと思う。学校訪問をさせてもらい思うのは、基本方針の中にもあるが、これからの子どもたちがグローバル社会の中で自分の考えを持って自分で行動していくことが大切で、重要であることも謳われている。自分の考えを持つためには、色んな人と関わりながら、色んな意見を聞いて自分を成長させていくことが必要で、子どもたちが学ぶ環境としては、ある程度的人数がいる中で切磋琢磨していくという姿が望ましいと思っている。

現在、コロナ禍により色んな面で厳しい状況になっているが、今の子どもたちが20年後、この上田市を支えていく子どもになっていくために、今の段階から考え、自分の口で発言できるよう

な子どもになって欲しいと思っている。

子どもたちは少人数の決まった中で色々な考えを持つのではなく、多くの人間と関わりながら、色々なコミュニケーションを取り、考え方を広められるよう、基本方針にもある「目指す子どもの姿」のように育てていただきたいと思う。私としては、子どもたちを色々な意見の中で、お互いに意見をぶつけ合いながら育てる環境となる学校規模にしていって欲しいと思っている。

以前、学校訪問で小学2年生の授業を拝見し、スイミーという小さな魚が主人公の話の中で、大きなマグロが襲い掛かってくる中で小魚が集まって対応するという物語、それを今回はコロナに見立て、そういう中でどうやって対処していくかということ国語の時間で勉強され、いい授業だと思った。みんながまとまって、ある程度の意見をみんな考えていくというのが非常に大事だと思うので、ぜひお願いしたい。

●北沢教育委員

少子化の進行や人口減少社会という現状にあり、これからの学校はどうあるべきかを考えていく必要がある。これまでも上田市教育委員会として何年もかけ、識者の意見を集約し今回、「基本方針」をまとめていただいた。私も当初から報告書の内容に意見を述べるなどして関わってきており、この学校のあり方に関する基本方針の内容を、大事にしていきたいと思う。内容については9割は賛成であり、この方向に沿って、今後の上田市の小中学校のあり方を考えていただければ良いと思う。

私の目指す子ども像は、「知・徳・体がその子なりにバランスが取れて、社会的自立に向け生きる力を身に付けてほしい」という思いがある。その中で、「子どもたちにとって本当に望ましい教育環境とは何か」、ここを一番大事にしていきたい。ただ、望ましい教育環境については意見が分かれるところであり、丁寧に意見集約をしてほしい。

また、上田市教育委員会としての方向について、どういう内容を、いつ、だれに説明して意見を伺うのか、ここを丁寧に進めなければいけないと思っている。具体的に言うと、「少子化が進行して学校が小規模化すれば、イコール閉校」というような発想、つまり、子どもが少なくなり、学級も少ない。ならば閉校だという単純な発想は控えていただきたい。

10 数人でも存続する学校もあるので、上田市の子どもにとっての望ましい教育環境については、学級規模・学校規模などを精査し、また、「何を視点にして学校のあり方を考えていくか」、ここを丁寧に考えていただきたいと思っている。

●森田教育委員

この「上田市小中学校のあり方に関する基本方針」、長い期間をかけてまとめられ、非常に内容の濃いものだと思う。学校訪問をさせていただく中で強く思うのは、子どもと先生との対話、自然に発言されている授業の中での会話など「つぶやき」を、先生がうまくキャッチするような授業を拝見すると、非常に心地よく、子どもたちが安心して学校の中にいることが伝わってくる。

基本方針の「目指す子ども像」の項目にある「自己肯定感」の部分では、多様な社会で色々な情報がある中、自分を肯定できる、自分を認めるといった感覚や意識を持てるということが、自ずと他を享受できるとか、多様性を認めることになると思うので、その子自身の自己肯定感を、どういう形で高めていけるか、ということが重要だと思う。

また、「縦の連携」の中の3項目にもあるが、社会課題にも高い意識を持つ大学生や高校生と、小中学生との「つながり」を持てる機会、そのような仕組みづくりが推進できれば良いのではないかと思う。それにより、お兄さんやお姉さんという存在で、子どもたちのメンターとなることが期待できると思う。

次の「横の連携」では「企業と連携したキャリア教育」とあり、ここでは従来の「職業キャリア」から、現在は「ライフキャリア」というようになってきている。職業や企業で培われるだけでなく、家庭や地域活動の中で、どういうことをスキルとして培っていけるか、それを違うフィールドで活かせるかなど、もう少し広域的な捉え方が重要と思う。

最後に「学びの環境」の中で、学校規模をどうしていくかが大きな課題であり、学校は集団生活の中での学びが大きな目的でもあるので、この集団生活を実現するための手立てとして掲げられている「小中一貫教育」は、今後、期待される教育のあり方になり得ると考えている。義務教育9年間の中で、年齢の違う層の子どもたちが交流し合い、相互関係を持つということが、多様性を認めることに繋がるのではないかと考えている。

●大久保教育委員

この「基本方針」に沿って子どもたちが健全に育っていくことを願ってやまないところであり、全体を通して見ると、決して強制することなく、教育についての柔軟性も読み取れるように感じている。少子化が進んで行く中で、中心に考えるべきは学校の主役ということで、教育を受ける「子ども」のことが一番大事だと思う。その子どもたちにどのような環境を提供できるのかが大事である。

ほとんどの学校で、地域の特色を生かした素晴らしい教育が行われており、そこに住んでいる地域の方々の支えあつての教育だと思う。そういった学校を今後、どういう風にしていくかを考える場合には、その地域をどのように活性化させていくかなども含め、総体的に話し合いを進めていただきたいと思う。

子どもたちにとっては、その学校で育った6年間というのは、将来、故郷の風景や思い出として心に残っていくものであり、その学校を廃校や統合するという結論ありきで進めるのではなく、方向転換という考え方も含め、地域の方々や色んな方の意見を聞きながら柔軟に進めていただきたいと思う。

●峯村教育長

基本方針について、委員の皆さんからお考えを拝聴したが、今後の進め方も含め、市長の考えをお聞きしたい。

●土屋市長

多くの方々によって作成された基本方針であり、大事な方針だと思う。委員の皆さんからも、それぞれ基本方針の中にあるキーワードを出していただき、それぞれ大切なことであり、基本方針に沿って進めていただきたいと思っている。

例えば13ページの「学びの環境」について、小規模校のメリット・デメリットも出されているが、実際の現場や関係する方々との話も、今後、詰めていくということで良いか。

●峯村教育長

今後の進め方については、本日、この場で内容を確認いただき、方向性をお認めいただければ、総合教育会議の総意として進めていく形としたい。

先ほど北沢委員から意見あったように、説明の時期や内容、また、どのような人たちに集まっていたら、この方針を理解いただくかなどを十分に検討し、中学校区ごとに説明会を開いていきたいと考えている。

●土屋市長

基本方針の内容を、もっと噛み砕いた形で説明に臨むということか。

●峯村教育長

先ほどから色々と意見をいただいているように、地域の皆さんと課題を共有していくのが第一段階だと思っている。

少子化の波は避けられないことで、向こう 10 年間を見ても、毎年 130 人くらいずつの子どもが減っている状況にある。非常に大変な問題であり、どのような内容をお伝えするかなど、精査しながら進めていきたいと考えている。

●土屋市長

中学校区ごとに教育委員会として説明していくことは、初めてという形になるのか。

●峯村教育長

教育委員会としては初めてのこととなる。過去に、一部の学校では色々と検討があり、意見もいただいているが、市民の皆さんに分かってほしいことは、少子化に伴い、どのような環境が子どもたちにとって一番良いのか、ともに考え合いたい、というスタンスでスタートしたいと考えている。

●土屋市長

上田市全体で、共通の形として共有することが大事だと思うので、中学校区ごとに進めてほしい。

●峯村教育長

市長からもお認めいただいたので、基本方針に沿って鋭意進めてまいりたい。

(2) 上田市の不登校対策(現状と取組)について

●緑川学校教育課長

資料2により現状と取組を説明

●横澤指導主事、福澤指導主事

教育現場(小学校)における状況を説明

- ・各学校でガイドラインを作成し、不登校初日であっても家庭訪問するなど対応している。
- ・担任 1 人でなく、校内で適応支援委員会を組織して校長や教頭を含め対応する。
- ・別室登校など居場づくりをするが、子どもを見るための人手が必要と感じている。
- ・小学校 1、2 年生の不登校も増えているため、スタートカリキュラムを作って実践している。
- ・保護者の方の悩みなど思いに寄り添った支援をしていくことが大事であると思っている。

●横澤指導主事、福澤指導主事

教育現場(中学校)における状況を説明

- ・小学校との連携として、3 学期には移行支援会議を実施している。
- ・また、春休みに登校する機会を設け入学式の予行演習を行い、中学校の雰囲気慣れるよう取り組んでいる。

- ・支援を必要とする児童生徒について話し合う支援会議を年間 150 回ほど実施し、管理職(校長・教頭)も含め情報共有をしている。
- ・市の子育て子育て支援課や福祉課の協力により、関係者会議を実施している。
- ・保健室の役割が大きく、市で養護助教諭の先生を配置してもらい、ありがたかった。
- ・校内中間教室を設け、学力保障のため授業を実施している。
- ・特別教育支援員、心の教室相談員、養護助教諭の先生など、人的支援が望まれる。

● 峯村教育長

この立場になって、学校を離れて色々な見方をしているが、学校がすべきこと、家庭と地域がすべきことについて考えている。

まず学校がすべきことで、一番、心を痛めているのは教員の不祥事や体罰など、これが不登校につながるよう、安心で安全な学校づくりが第一と考えている。

そして未然防止については、不登校の子ども心の傍らに寄り添うことが全てであり、子どもの様子を見て、話しかけ、子どもの話をよく聞くことが大事だと思う。

また、自己肯定感や自己有用感をどうやって育てるかも大事なことで、教師として使命感を持ち、児童生徒の動きに関心を持って真剣に関わり、地道な努力を積み重ねて教師自身が人間としても成長していくことが必要であると考えている。

家庭に関しては、特に親の養育態度として問題があるのは、例えば厳しいしつけ、過干渉、過保護、期待過剰、子どもの考えや行動の全否定、虐待などが考えられ、さらに、学校の働きかけに批判的な保護者もいるため、学校現場では非常に苦勞されていることと思う。

地域ではどうあれば良いかということは、今後、この場で議題していきたい内容で、学校や不登校の本人、その家族をどうやって地域で支えるか。また一歩踏み出していけるような力を蓄えるように、どうしていったら良いのかということを考えている。

不登校の割合として「無気力、不安」が非常に多い。無気力型の特徴としては、強く催促すれば学校へは行くが、長続きしない。主体性が見受けられず、積極性も乏しい。面倒くさい・だるいとか、先生が嫌いとか言いながら「不登校」を宣言してしまう。昼夜逆転したり、家族とは最低限の会話しかしない、学校の話はできるだけ避ける、また、登校刺激する人を避けて、しない人と仲良く話す。その結果、自室にこもりがちになって外出しなくなる。こういう子どもにどう対応していくか、難しいことではあるが、目的や目標を見つければ動き出すのではないかと思っている。生きることをどう見つけるか、無気力型には大事ではないかと思う。

不登校は十人十色、色んなことが複合的に絡まっているので、一つの手立てでは改善できないということは、以前から話し合ってきた。教育現場の苦しみを分かってもらい、今後、市長部局と教育委員会がどのように連携して対応していくかということに辿り着けばありがたいと思っている。

● 北沢教育委員

不登校対策というのは難しい問題だと感じている。今、主事のお二人の発表をお聞きし、以前の勤務校での不登校の状況を思い出した。

資料の5ページの数値を見て、中学校 1 年の不登校生徒の増加、いわゆる中1ギャップが気になる。小学校 6 年から中学校 1 年に学年が上がると、年によってほぼ 2 倍など、この比率はかなり高いものと思う。小中学校が連携し、情報交換はもちろん、小学生が中学校の授業を見たり受けたり、中学生が小学校へ行って様々な交流をするなど、中1ギャップを無くそうという努力は分かるが、それだけで良いのかと思う。

私は以前から、上田市は不登校に対してほぼ適切な対策をしていると思っている。スクール

カウンセラーやスクールソーシャルワーカー、支援員、中間教室など様々に対策を取っている。教育相談所などハードの面も、ソフト面も含め、形は整っていると思う。一生懸命やっているから、この数字だということを、これまでも申し上げてきた。ただ、取組の内容を精査してほしい。

不登校への対応で、「学校でどうすれば良いか」ということでは、8ページにも書いてあるとおり早期発見や早期対応は勿論のことであるが、不登校数が少ない、または不登校児童生徒がいない学校は、学校の規模に関わらず授業がすばらしく見ていて楽しい。それは分かる・できる・伸びる授業であり、一人一人を大事にしているということを感じる。

自分が勤務していた学校でも不登校のお子さんがいた。対応が難しく、方程式がない。「人」対「人」の中で生じている問題は、「人」対「人」の中で解決するしかないと思っている。学校の中での良い授業、良い集団作りが大切であると思う。

●綿谷教育委員

学校訪問した際、分かる授業、楽しい授業だと、子どもたちが惹き込まれていくよう感じた。そういう授業を目指すことは非常に大事なことだと思う。

大人でも会社に行きたくないと思う社員もいて、それぞれ事情を抱えている。心の病など鬱の状態であれば、心療内科を受診させるということも必要と考えている。子どもたちの中にも学校に行きたくない原因があり、この原因の分析も大事なことだと思っている。

子どもたちはみんな教育を受ける権利を持っていて、健全な心と体の中で授業を受け学んでいけるよう、心を開かせる対策をどうやっていくか、徹底して考えていく必要がある。このことは、学校の教員任せではなく、市全体として考える必要があり、病院関係など、色んな意見を聞けるような状況を作っていただければと思っている。

今、不登校になっている子どもたちが、大人になったら元気に色んな人と話せるような人間になってもらえるよう、市全体としてやっていただきたいと思う。

●森田教育委員

不登校を考えると、大きな原因となっている「無気力・不安」に目を向ける必要があると思う。小学校や中学校の時には、よく喧嘩をしていたような同級生と不登校の話をした際、「先生に怒られても学校には絶対に行っていた、学校は楽しかった」との話があった。先生に目を付けられるなど、みんなが放っておかなかったということだったのかと思う。逆に静かな子で、教室の隅のほうで座って本を読んでいる子がいても、子ども同士でお互いに認めている状況があった。無視されたり、見て見ぬふりをされる状況が一番つらいように思う。無気力や不安は、自分が存在していない、ほかから透明人間のように見られるなど、そんな意識から出てくるものではないかと想像できる。

不登校には様々な原因があり、家族でも原因が分からないケースも多いと思うが、どうか。

●横澤指導主事

保護者の話や、会議等で学校の様子を聞くなど推察するが、原因を決めることはできず、様々な原因が重なっていることが多いものと考えている。

●森田教育委員

原因が何なのか追求することも重要かもしれないが、とにかく子どもを構ってあげる、透明人間にさせないよう、つぶやきを拾い、キャッチボールをするなど、日常の先生と子どもたち、また、子どもたち同士というところに、改善の一番のポイントがあると思う。

●大久保教育委員

小・中学校の義務教育の間は、学校に行き、友達や先生など色んな人と触れ合って、学校の勉強以外にも色んなことを学んで、刺激を受けて心身ともに成長する期間だと思う。その時間を学校に行けず、家に引きこもってしまうのは勿体なく、可哀想なことだと思うので、1日も早く健全に成長できる環境に身を置いてもらいたいと思う。

現場の先生がたの意見にもあるように、「人と時間」が足りないという状況であれば、それを確保してあげられるようにしてほしい。

精神の成長が一概にバランスよくできない時期だと思うので、不登校の原因をピンポイントで探すのは難しいが、原因の模索は大事だと思う。本人も辛いと思うが、周りで見ている家族の方も心を痛めている場合が多い。改善が必要と思われる家庭については、指導やサポートができるようにしていったほうが良いと思う。

●土屋市長

主事のお二人から現場での様子を伝えていただき、私たちも直接そのような状況を知る機会もないため、不登校対策が難しいということを具体的な表現で示していただけたことは非常にありがたいと思っている。小学校から移行していく支援会議のことなど、教室復帰を目指すという中で努力されている姿を非常に強く感じた。

不登校だった児童生徒が、その後、卒業してからの様子なども気になるところで、高校へ行く以外にも色んなルートがあるため、そのような状況を知っておくことも大事だと思う。

100点を取るということではなく、分かる授業をしていくことが大事で、小学校の低学年のうちから理解することにより、学校の楽しさが出てくる可能性もある。このことは、それぞれの学校の先生がたの努力に頼らなければいけないところでもあり、授業が分からなくて不登校になることがないよう、大事な視点であると思っている。

私たちも、未然に防ぐというところで、両方から対応していくべきものと思っている。

●峯村教育長

本当に難しい問題で、一人の教師が解決できる問題ではなく、教育委員会や市長部局という「組織」で知恵を出し合って、子どもを真ん中に置き、自分たちはどんなことができるか、皆で意見を出し合うことが解決に近づくものと思っている。

今後、色々な立場の方にお話を伺い、広い視野に立って御意見をいただきたいと思う。

●小相澤政策企画部長

ありがとうございます。さまざまな御意見を頂戴いたしました。教育長からもありましたように、こういった現場の先生方も今後お呼びし、現場の状況等をお聞きしながら、共に情報共有して考えるということで、今年度の重点的なテーマとして扱ってまいりたいと考えております。

5 その他

●小相澤政策企画部長

次回会議につきましては、次第に記載いたしましたとおり、8月・9月以降に日程調整させていただきます。今回と同様、不登校対策関連の協議について、御提案をさせていただきます。

詳細日程につきましては、のちほど担当のほうから御連絡したいと考えております。

それでは、これにて本日の第1回の上田市総合教育会議を閉会させていただきます。誠にありがとうございました。